

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

① サンショウウオの飼育，デンジソウの繁殖など

生物教室でサンショウウオを飼育しながら，その産卵から成長していく様子を調べ，まとめた。また，絶滅危惧種のデンジソウの栽培を生物部が年間を通して行い，学会や高校生対象の発表会等で発表した。また，花酵母の研究から木質バイオマスからエタノールを作る試みを始めた。

□2015年8月4日 第5回高校生バイオサミット in 鶴岡

農林水産大臣賞 「バイオエタノール製造に利用できる酵母を求めて」

□2015年9月19日 日本動物学会第86回新潟大会高校生によるポスター発表優秀賞 「イモリのクローン作成を目指して」

□2015年12月22・23日 第59回日本学生科学賞 中央最終審査
科学技術政策担当大臣賞 「デンジソウの就眠運動の解析 IV」

② 身近な水田・湖沼の自然観察（4月25日・9月26日）

中学3年生を対象に岡山県自然保護センターにて2回にわたって，動物・植物の観察を行った。センター職員の指導の下で動植物の種類や見分け方や特徴等を学び，自然環境の大切さを学んだ。事後の活動として，興味を持った動植物についてレポートにまとめた。

③ 森林の自然調査（8月3日～8月7日）

生命科学コースの高校1年生を対象に鳥取大学農学部附属の蒜山フィールドサイエンスセンターにて森林調査等を行った。鳥取大学農学部と連携して，蒜山地域の動植物の観察から，枝打ち体験や樹高や樹齢の測定，さら火入れ地域の植生の観察をした。大自然に入る抵抗感が緩和され，森林に親しみ，森林の果たす役割を認識できた。平成27年度は，マレーシアのツン・フセイン・オン・マレーシア大学の大学院生・大学生が参加し，合同で森林実習を行った。

□2015年5月16日 中四国地区生物系三学会合同大会 生態・環境分野

優秀プレゼンテーション賞「ブナ人工林は天然林より多くのCO₂を吸収するのか」

□2015年12月12・13日 第13回高校生科学技術チャレンジ（JSEC）最終審査
優等賞 「CO₂をより多く吸収するのは天然林か、人工林か？」

④ 海洋の自然調査（10月6日～10月10日）

生命科学コースの高校2年生を対象に沖縄の琉球大学熱帯生物圏研究センター等で亜熱帯の動植物の観察や実習を行った。

⑤ 女子生徒による科学研究発表交流会を開催（10月31日）

今年度は慶應義塾大学にて「女子生徒による科学研究発表交流会」を開催した。本校の生徒に加え，課題研究に取り組む全国の中学校・高等学校の女子生徒約270人が集まり，ポスター発表等で交流を深めたほか，女性研究者の講演などロールモデルにも触れた。

- ⑥ 環境学習を中心とした中学での海外研修（7月5日～7月18日）
中学3年生がオーストラリア約2週間のホームステイを実施し、環境保護に積極的な市民の姿勢を知るとともに、日本では見ることのできない多雨林群を観察した。さらにアボリジニー文化など異文化理解が進んだ。この研修で学んだことを秋の文化祭で発表した。
- ⑦ 環境学習を中心とした高校での海外研修（3月19日～3月29日 ※予定）
生命科学コースの高校1年生とその他の希望者がマレーシア国（ボルネオ島）サバ大学およびフセイン大学と連携して10泊11日の研修を行う。サバ大学では講義を受けると共に、蒜山の森林調査の結果を英語で発表する。大学生と環境問題を中心に英語で話し合う。日本とは全く植生の違う熱帯林の観察や調査を行い、女子高校生との交流も入れて、国際的な視点で環境問題を見る眼を養う。
- ⑧ 「女性」をテーマとした授業
高校2年生文理コースを対象に、「現代社会とジェンダー」等、女性に関わる問題をテーマに週2時間の授業を行った。テーマごとに姉妹校のノートルダム清心女子大学の講師が講義をした。文化祭では「赤ちゃんポスト」についてのディベートを公開した。授業を通して女性に対する諸問題に気づき、自分の問題として捉え、最終的には各自がテーマを絞ってプレゼンテーションをした。
- ⑨ 「社会と女性」をテーマとした海外研修（3月19日～4月3日 ※予定）
アメリカ合衆国ハワイ州にて「国際社会と女性」というテーマで短期留学プログラムを行う。大阪府立大学女性学研究センター副主任東優子教授と、ハワイ大学ピーター・マタイラ教授がプログラム・コーディネーターとして、女性エンパワーメントのための講義や研修を行う。また、校内の「発展科目」で学習した「女性学」の課題研究を、英語で発表する。ハワイ大学、ハワイ・パシフィック大学、カフク高校など現地の高校生や大学生との交流を計画している。
- ⑩ スカイプミーティング（5月26日）
オランダ Were DI School とのスカイプミーティングを実施した。今年度は、本校の高校1年生が環境問題に関するテーマについて、4つのグループに分かれてグラフ等を用いて英語で発表した。
- ⑪ 岡山県ユネスコスクール実践交流会（11月1日）
岡山県内のユネスコスクール9校の生徒が集まり、交流会を行った。各学校での取り組みについて発表を行い、その後ワールドカフェのスタイルで、小グループ内でのディスカッションを行った。各学校での取り組みの成果を共有すると共に、それぞれの活動について、多くの生徒からフィードバックを得て改善点を考える契機となった。
- ⑫ 第9回ユネスコ・ユースフォーラム世界大会（10月26日～10月28日）
高校3年、井関やあめさんが、「第9回ユネスコ・ユースフォーラム世界大会（パリ）」へ参加した。インドの「マハトマ・ガンディー平和と持続発展教育研究所」から推薦され、ユネスコ本部より、10月1日付けの招待状が届いた。この生徒は、平成26年11月に岡山市で開催された「ユネスコスクール世界大会高校生

フォーラム」において、開会宣言および全体会議長を務めた。そのことがきっかけとなり、同研究所からユースフォーラムへ推薦された。そして平成27年10月26日から28日までの3日間、パリのユネスコ本部にて、世界から集まるユース（18歳から24歳までの若者）500人と共に、世界が直面する地球規模の課題について議論した。

⑬ G7 倉敷教育相会合イベント「倉敷こどもサミット」（3月6日）
平成28年に開催されるG7教育相会合のイベントとして開催された、G7の子どもたちと倉敷市内の中学生による「倉敷こどもサミット」において、本校生徒の井関やあめさんが、基調報告（第9回ユネスコ・ユースフォーラムへの参加報告）と、こどもサミットのファシリテーターを務めた。本校からは、中学3年生3名も参加した。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）